

＜令和3年度 第3教育ブロック ブロック化による学校支援事業 取組内容＞

大項目	中項目	小項目	対象		趣旨・内容等
			校種	タイプ	
Ⅰ 学力向上	A	学力向上基本配付 a学びサポーター b言語活動が充実する取組 c学習のめあてを振り返る学び	小中	一律	○基礎学力の定着・主体的に取り組む態度や自尊感情の育成に向け、学びサポーターを活用し、授業者だけでは支援が十分できない活動において、児童生徒の特性に応じて学力の向上につながるきめ細やかな取組を進める。
	B ○小学校は、右記取組のいずれか(複数選択可)を選択し、各学校の実情に応じて取組を進める。 ○中学校は③④のみ(希望制)	①学力向上推進事業による取組	小	選択	○小学校国語・算数指導資料を参考に、教員の授業の後、単元別確認シートを活用し、子どもの知識の定着を確認する。児童の課題を明らかにし、個別学習や家庭学習に活かした取組を進める。 ○教科(国語・算数※複数可)は、各学校で決定。
		②徹底反復学習(陰山メソッド)の取組	小	選択	○朝の時間や授業の中で、百ます計算や漢字の反復練習、反復音読等の陰山メソッドを活用した取組を行う。 ○取組内容(音読・漢字・書き順・百ます計算※組合せ自由)は各学校で決定。
		③リーディングスキルによる取組	小中	小は選択 中は希望制	○児童生徒のリーディングスキルテスト結果を分析することで、児童生徒の読解にかかるつまずきや理解の偏りを把握し、一人ひとりに合わせた指導の工夫に役立てたり、教員自身が受検することにより、読解力についての見識を深め、自校児童生徒の実態に応じた効果的な教材作成や授業改善に役立てる。(教員又は小6・中1・中2のいずれか1学年)
		④主体的・対話的で深い学びのある授業づくり～「学びの共同体の実践を通して～」による取組	小中	小は選択 中は希望制	○「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」を学校現場に展開させるための授業方法の改善に学校内全体で取り組み、教科はそれぞれの教員が決める。(全体研修会の実施・スーパーバイザーの派遣)
C	自学自習ノートの配付	小	一律	○家庭での学習習慣を確立する手立てとするため、自学自習ノートを配付し、活用する。(全小学校3・4年生)	
Ⅱ 外国籍児童生徒等への支援	日本語指導が必要な児童生徒の在籍する学校への予算配付	小中	希望制	○外国籍児童生徒が数多く在籍し市レベルの事業だけでは十分に対応できない学校への支援。 <人的配慮>学びサポーター・心の支援など <物的配慮>ルビ入り教科書作成・コミュニケーションツール導入・センター校教材購入など	
	教員への研修	小中	希望制	○外国籍児童生徒との関わり方・学習進捗状況の把握の仕方・学級経営等について研修会を実施。	
Ⅲ 不登校対策	学級診断アセスメント(hyper-QU)	小6 中1	希望校	○児童生徒にアンケートを行い(年2回)、それを分析して児童生徒の学校生活意欲を確認し、不登校の予防と対策に活用する ○教員が研修にてQUの活用方法を学べる機会を持つ。	
Ⅳ 生活指導			事務局		○各校の実態調査を行う。 ○ガイドラインや事例集の作成を視野に、他都市事例等の資料の収集する。
Ⅴ 生活習慣・学習習慣の確立			小中	一律	○家庭での規則正しい生活や家庭学習の定着、自尊感情を高めることや夢や希望を持つことの大切さについて保護者に向け啓発する。(保護者向け啓発プリント配付・実践事例の紹介)